

平成30年度 教育指導の充実に関する研究グループ 活動報告

1 教育指導グループ組織

	学習指導チーム（ICT授業）		生徒指導チーム（Q-U活用）	
グループ主任	伊端 俊紀（中名寄小）			
副主任	菅藤 正伸	風連中	野宮 勉 井川 健	名寄東中 風連下多寄小
研究主任	袈田 佳奈恵（名寄中）			
副主任	長岡 勇樹 馬場 泰栄	風連中央小 中名寄小	谷柿 憲治	智恵文中
委員	月田 佳佑	名寄南小	林 琢磨	名寄小
	山岸 俊樹	名寄西小	佐藤 亮介	名寄東小
	天谷 亮太	名寄中	寒川 寛之	風連中央小
	牧野 巧	智恵文中	松井 秀樹	名寄東中
	森 憲児	風連中		

2 研究内容

- (1) 提案授業を1～2本行い、授業改善に向けた指導過程を検証し、発信する
- 対話を重視した授業の構築
 - ICTを活用した指導過程の工夫
- (2) Q-Uの活用についての具体的な手立てと成果と課題の交流

(1) 提案授業の実施

- ICTを活用した指導過程の工夫
 - ・スカイメニューの効果的な活用について
 - ・中学校技術・家庭のプログラミングの授業の交流

(2) Q-Uの活用についての具体的な手立てと成果と課題の交流

- Q-Uの効果的な使い方に関する研究
 - ・昨年度の各学校の活用状況の交流
 - ・活用のためのリーフレット作成

3 今年度の活動経過

年	月	日	学習指導チーム	生徒指導チーム
30	4	24	□第1回教育改善プロジェクト委員会 ●第1回研究グループ会議 (今年度の研究内容・計画, 役割分担等について確認)	
	5	23	□第2回教育改善プロジェクト委員会 ●第2回研究グループ会議	Q-U活用について交流
	5~6月			各学校で第1回Q-U実施
	7	18	●指導案検討(授業者 天谷教諭)	Q-U活用リーフレット検討
	8	31		Q-U活用リーフレット完成
	9	25	●提案授業(授業者 天谷 亮太教諭(名中)) 研究協議	
	9~11月			各学校で第2回Q-U実施
	12	13	□第3回教育改善プロジェクト委員会 ・各研究グループの研究の成果と課題 ・教育研究集会における発表内容の精査 ・平成30年度の研究の成果や課題等について発表・協議	
31	1	22	名寄市教育研究集会 EN-RAYホール	

4 今年度の活動

(1) 提案授業の実施 (ICTを活用した指導過程の工夫)

資料1・2

- 1) 研究内容の決定と指導案検討(～9月)
- 2) 提案型授業の実施と研究協議(9月)
- 3) 次年度に向けての課題の整理(9～12月)

(2) Q-Uの活用についての具体的な手立てと成果と課題の交流

資料3

- 1) 前年度までのQ-U活用についての交流, 効果的なQ-U活用方法について(5月)
- 2) Q-U活用の実施(5～6月, 9月～11月)
- 3) 効果的なQ-U活用についてのリーフレット作成(5～8月)

5 成果と課題

(1) 提案授業の実施 (ICTを活用した指導過程の工夫)

【成果】

- 中学校の技術科の「制御(プログラミング)」の授業を行うことで, プログラミングの授業の概要を理解することができた。
- コンピュータ室における授業によって, スカイメニューの有効な活用法を知ることができた。
- ICTの活用, プログラミング, コンピュータ室の使用等, 様々な要素を含んだ提案授業のため, 今後の課題が明確になった。

【課題】

- 今年度はICT機器の導入が遅れたために、現状のICTを活用した提案授業しか実施（提示）できなかった。次年度は、ICT機器の導入も終了していると思われるので、タブレットを使用した提案授業を実施（提示）したい。
- プログラミングについて、小中連携した取組が必要である。名寄市内で共通のソフトを使用できると小中の連携した取組ができる。
- プログラミングについては、中学校の技術科の教師が講師になるなどして、実技研修を実施し、実際に体験する場面が必要である。

(2) Q-Uの活用について、具体的な手立てと成果と課題の交流

【成果】

- 昨年度の各学校の活用の実態を把握し交流することで、今年度の活用についての見通しをもち、どのように活用した方がよいのかという考えを深めることができた。
- Q-Uの活用のためのリーフレットを作成し、各校でのQ-Uの有効活用に役立てることができた。

【課題】

- 昨年度のQ-U活用の実態から、Q-Uを全校の児童・生徒に対して実施した方が、全教職員の児童・生徒の理解に役立てることができることがわかった。そのことから、現在、教育改善プロジェクトの取組として、小3、小5、中1で年2回Q-Uを実施しているが、全校の児童・生徒に対して実施し、児童・生徒理解及びよりよい学級経営のために活用していく必要がある。
- Q-Uの有効活用だけでなく、各校の不登校・問題行動等の児童・生徒に対する各校での実践例の交流や関係機関との連携についての研修を深める必要がある。